

## 旅の楽しさ誘う走り旅

浅井保弘

日本最初の縦断走り旅大会の為日本列島北の果て寒風吹き荒ぶ宗谷岬に続々と集まってきた、暇で時間を持てあました馬鹿なジャーニーランナー達くせ者揃いの12人衆と番外独り、清水の次郎長親分ならず、呼びかけ人の森塚を筆頭に遠軽の自由人毛利、遠州袋井の掃きだめに鶴金原、生駒の侠客谷川、太秦の役者長尾、尾張名古屋は越田で保つ、中山道桶川宿の田中、三河吉良仁吉の子分若穂井、越後の走人高橋、武州の旅人鈴木、房総八千代の町田、尾州の阿呆浅井、武蔵の番外中村。

馬鹿は走らなきゃ直らない、地図は読めるが度胸も走力も無い尾州の阿呆。

時は平成25年晩夏、はかない時の過ぎ去る人の世、旅の衰れを誘う走り旅、

オホーツク海の砂嵐と雨が吹き荒ぶなか合羽をバタつかせ尾羽打ち枯らした走り旅一家  
佐多岬までの夢と希望を持ち不安渦巻く初日の走り。

顔で笑って足の痛みに堪え走って直すしか無いので走り続けはしているが宿は恋しい、身体は恋しい腹はひもじい早く楽になりたい。

他人が観れば羨ましいジャーニーラン、元気で達者な振りして前向いて心切ない古里恋し。  
毎日毎日ひもじい思い食べても食べても痩せて疲れた身体に夕食はコンビニ弁当、冷や飯に身を任せ、何処のどなたか声掛けて、何していると問われれば日本縦断中の答えに聞く人は皆口をポカリ開けて頑張ってくださいと、元気でいいですねと言われてみればカラ元気でも走ってみせる。

足は痛いほざっくり腰は治らないあげくは風邪で頭が痛く鼻水は止まらない三重苦でも何事も無いが如く朝、宿を立ち夕方へとへとで尾羽打ち枯れて部屋に倒れ込む日々。

これがあこがれの日本縦断ジャーニーランなのか？

頭は疲れて真っ白で考えられない、「見てみて母さんあの人の足すごい筋肉で真っ黒け」  
どうしてギリシャ彫刻の様な筋肉になるのかと尋ねられても言葉が詰まる。

ただ重だけの駄馬の足、せめてもう少し早く走りたいが素質が無いのは如何せん。

歩いて前に進むだけ、グットポイントに少しでも寄りたくても最終ランナーではまたまた遅れるばかり見学も儘ならぬが、朝靄の川や山の景色に堪能し遠くから望む五重塔、寺の屋根、神社の鳥居、大木を見上げて圧倒され、金木犀、山梔子の香りに酔って身体の疲れも忘れてしまいます。

老眼を上げて地図を必死に読み街の中を時の経つのも忘れて夢中で街道を進む時、  
三太郎峠で標識に従い藪こぎしていれば楽しく気が付けば宿に近づいて行く。

儂すぎる人の世の旅の楽しさを誘う、佐多岬にたどり着けば夢も希望も不安も無くなり  
安堵すると共に身体の力は抜け脱力感漂い無気力で魂忘れた人形の如く、明日の希望も無い寂しさに項垂れて向かう宿への帰り道。

酒を飲で忘れたら明日の希望もやっこよう、夢をひとつ越え又越えて次の夢に向かって  
前進出来る幸せ・・・ジャーニーラン万歳